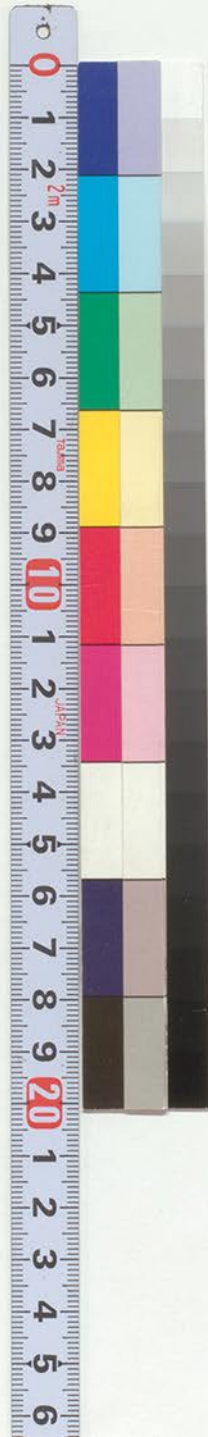


新板

女訓百人一首

全







種所

あじろく

高之

子子子子

[illegible]

天智天皇

秋乃回北

唐の

卷之四

我々

嘉慶



A woodblock print illustration from a Japanese book, showing a landscape with mountains, a river, and a large tree in the foreground. The style is traditional Japanese ink and wash, with stylized lines representing the terrain. The foreground features a large, gnarled tree on the right side, with a small structure or pavilion nestled beneath its branches. A river or path flows from the left towards the center. In the background, there are rolling hills and mountains, some with small buildings or structures on their slopes. The overall composition is typical of Edo-period landscape prints.

持統天皇
あまの
すさ
きみ
なつみ
けい
し
の
あま
の
かみ
かみ
かみ



わびきつゝのよきといふは
そとのほろつことばといふ
ものあり。此どりのほろつは
あつといふへふあつ秋の
萩のよきあり。くは萩と
あつねくさりのうたお
まてふうひふたがねん
まうかゝらあひだて
あつ



うきめくのひとまろ
柿太夫



此のころは田子のうに
 りふらうやうにうり
 らふふこそそのまのその
 まにまゝのふふふり
 つりつりけしめとある
 らたりきききききき
 けききききききき
 ふふふふふふふふ
 ふふふふふふふふ



山名を人
 田子れ浦ふ
 うちわき
 とき
 まるるの
 ほどれ
 言へりけ
 まるるに



このころは田子のうに
 りふらうやうにうり
 らふふこそそのまのその
 まにまゝのふふふり
 つりつりけしめとある
 らたりきききききき
 けききききききき
 ふふふふふふふふ
 ふふふふふふふふ



奥山
 精丸を
 なくあ
 とき
 まるるの
 とき
 まるるの
 とき
 まるるの



あゝの
白きを
よき
あそふけふる



喜撰法師

我居を
老の
ま
廉ぞ
よ
人

[illegible]

小野小町
 絶乃
 うつりふ
 我牙よ
 せま
 小町

蜂丸
 ちまよこの
 ゆくも
 功る
 まうれて
 志家も
 あふさうれせき

世は、うゝ人まへく、うゝるものなり
かりてあましくのふなりあき
ゆく處とわひゆりとよめるが
さう、人のこころをさだめ
うゝふらふつりおひわたす
ある方多かりのおつげよく
とびでうゝるさいも余
な。是等の

ちんちんのそのゆあり

参議公望
 和田の系
 八十崎
 清出ぬ坐
 人中つあよ
 あまればり舟



傳正遍昭
 三津の智
 雪乃
 ちひ
 ぬさともち
 乙女れそつこ
 志をーとめん



陽成院
 親を祢の
 孝
 あり
 あるま
 孝
 の月
 中
 ぬねる

まゝるゝやゝ
あとかり



河原太極

みちくせ



之

中

誰也了

三十一

いにしなむかひ



此のころ
張亮^{ちやう}の二月七日七条のころを

と人木をひきつゝ、^{たけ}_の山へあふくと
 出づるわがうせぬかたきまゝ親
 まゐてありまじりし時ぞさうめい
 この人のみすそを腰おきてこころ
 あつんでうなをあらはにこそおも
 りもあふらん人とおなじめー
 なうう人のためとおぼしけと
 はとうちへなりやう



多
 々
 々
 々
 々

光孝寺

君つゝあや

まのぼ

卷之四

まゝ

我身自に

雷をかりて



中納言ちゅうなごん 幼少ようしょう

五十二

い
る
の

の

卷に

卷之四

まき

七降りとん

A horizontal decorative border featuring stylized pine trees and a small figure on the left. The style is traditional Japanese ink wash (suiboku-ga). The figure on the left appears to be a person standing near a small structure. The pine trees are rendered with varying heights and densities of brushstrokes, creating a sense of depth and texture. The background is a light, textured paper.

ちぢかふといひ辨とて人
まへうことありきこ川原
りまちのちりうりひても石
あふさけ代あふくあふこ
のとありといふものをけれ
やもさういふうらあひ
のあふくのうふあふのさ
とてといふ

ありわろのかりひろ
在原業平

胡氏

千泉振

神代

五

あつぐん

かゝる家々

名づゑ象とは

此のうたのえのきーよ
 うさぎやうんすのこひ
 ありうさぎのうさぎやう
 人さうせんわあねども
 そのめふさううさぎのび
 けあうひとくーと
 さんてうさぎあもあ
 いらうさぎとあきさう
 ていふ



ちつとくあそん
 友系叙転伝
 任乃江の
 岸イ
 よる
 浪
 くるさや
 夏のりよひぢ
 人わよくらん

此のうたのえのきーよ
 うさぎやうんすのこひ
 ありうさぎのうさぎやう
 人さうせんわあねども
 そのめふさううさぎのび
 けあうひとくーと
 さんてうさぎあもあ
 いらうさぎとあきさう
 ていふ



ちつとくあそん
 友系叙転伝
 任乃江の
 岸イ
 よる
 浪
 くるさや
 夏のりよひぢ
 人わよくらん

此のあつちのいふまゝにこそ
 今まにやうなうらな
 分まつてゐるものあら
 ありふたつてゐるもの
 も身をつらうのうらな
 中ふりひらひとそとを
 だのうらなひとそとを
 つたふらん



元々親王
 びねまへ
 今
 あり
 なま
 成をばくても
 あえむとぞ男ふ

このあつちのいふまゝにこそ
 わうはそりたのうらな
 今まにやうなうらな
 あつちのうらな
 まつちのうらな
 わけのうらな
 まつちのうらな
 うらな
 わけのうらな



素性法師
 今まにやうなうらな
 長月
 おり
 おり
 約出はるうらな

世よりわかれくせのふく
うららかにさるのまをまわ
おきてさひくげもすま
いせんにけくあじとむ
り、ハあのとれんとむ
ひあせう

ありむくすま
風とけふ
うらさ



うんやのすま
文屋康秀

吹つらに

秋れ

葉木の

青もみ

む山風を

あどとあらん



はつろの月とさるわ
のろのふともあわのそて
うだりるたうあさのふ
にまといひさうにむめ
うらあといふ十のふか
のたのふかあひと月の秋
あひあう

あひあう
うらあといふ



あわえのち
大に千里

月名をば

ちふ

ねも

うほ

わう身ひとつの

あき
秋子とあふねど



貞徳公
とぞう山
の
ちを
今一とび乃
うめさしあまん

十

出づるなりけりといふこと
 くらゐのものをあはれとて
 てのひびき川ゆきとてう
 とらふてふなりひなり
 くらゐのやとにききて
 かくてとてふの言とて
 男ふらんとてふとてふ
 ことなりとてふなり
 いづれ川ぬけなり

中納言兼輔
みづ乃系
日死
流る
いづも川
つもきとそ
あし
あらん

世に名をはかりてのすゝめありやま
 ざりしやうと表にあらはれりしち
 小のうとあらはれとすゝめ
 人めもあらはれとすゝめ
 のりありとすゝめとすゝめ
 をさびとすゝめとすゝめ
 人めとあらはれとすゝめ
 せのうとあらはれとすゝめ



源家千朝臣

山田

冬

さび

まさり

人めも

うまぬと



世に名をはかりてのすゝめありやま
 ざりしやうと表にあらはれりしち
 小のうとあらはれとすゝめ
 人めもあらはれとすゝめ
 のりありとすゝめとすゝめ
 をさびとすゝめとすゝめ
 人めとあらはれとすゝめ
 せのうとあらはれとすゝめ



九河内躬恒

心

おん

おん

おん

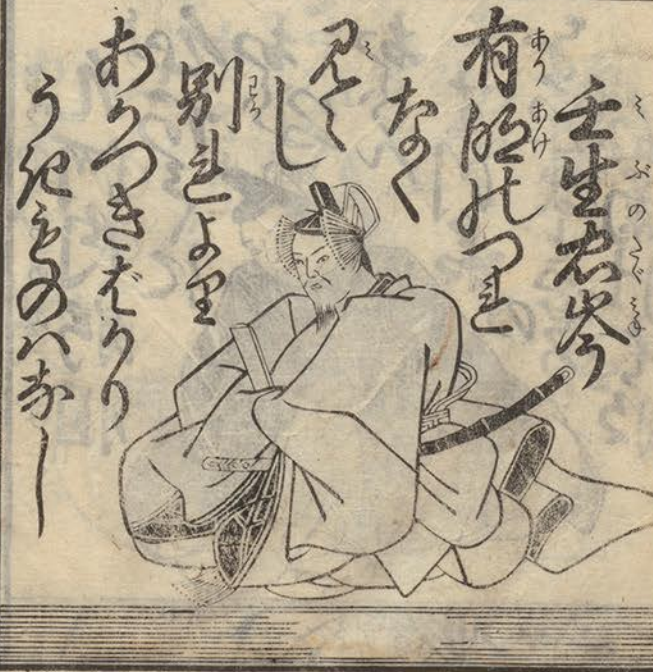
おん

白菊

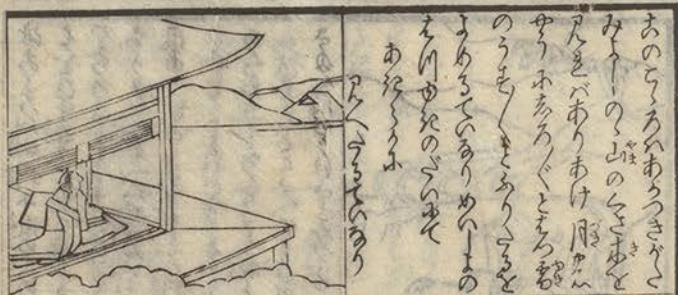




世と云ふはいふれつとも
人のつまずくてあつねま
そりゝわねなくとりて
とあるありあけの月つ
まぐのころあつねのぬち
ありてさうさつとて
よりあつたさうりよふ
うねりのかゝるとひと
あつたさうさうり



壬生志岑
有明れつと
なく
別れよ
あつたさうり
うねりのかゝり



あつたさうさうり
あつたさうさうり
あつたさうさうり
あつたさうさうり
あつたさうさうり
あつたさうさうり
あつたさうさうり
あつたさうさうり
あつたさうさうり
あつたさうさうり



坂上是則
あつたさうり
あつたさうり
あつたさうり
あつたさうり
あつたさうり
あつたさうり
あつたさうり
あつたさうり
あつたさうり

山あり川がよ

風
北

如

志

なぐさも何ね

ゆゑにありけり



紀友則

くさの

ひる

乃と

まゝの目よ

しんしんななく

苑ちるん



此ま ちんめうせふまをの
ちりけさあひあまど
風もあやめ目のうつくしく
けさあまのあまふもた
ちささのうつくしくなると
るかりのとけき月ゆめを
あひのうつくしくあまの
あまのあまのあまのあま
ゆめあまのあまのあまの





あつては
人ふあつてと
あつてはあつてと
あつてはあつてと
あつてはあつてと
あつてはあつてと
あつてはあつてと
あつてはあつてと



平兼盛
あつてはあつてと
あつてはあつてと
あつてはあつてと
あつてはあつてと
あつてはあつてと
あつてはあつてと
あつてはあつてと



あつてはあつてと
あつてはあつてと
あつてはあつてと
あつてはあつてと
あつてはあつてと
あつてはあつてと
あつてはあつてと
あつてはあつてと



平生忠見
あつてはあつてと
あつてはあつてと
あつてはあつてと
あつてはあつてと
あつてはあつてと
あつてはあつてと
あつてはあつてと

秋の松山にわがやうの山ありて
 雲を巻いてわが山と見ゆ
 末の松山ももくもくんと
 秋の山よりわが山と見ゆ
 うひのゆきうひの山と見ゆ
 あやうく末の松山と見ゆ
 こゆきまのうきと見ゆ
 せぬと今うきと見ゆ
 なるゆきと見ゆ



きよつゆとすけ
 法東元宿

実きまう

神を

志を

すぬのうら

なまおさ



秋の松山にわがやうの山ありて
 雲を巻いてわが山と見ゆ
 末の松山ももくもくんと
 秋の山よりわが山と見ゆ
 うひのゆきうひの山と見ゆ
 あやうく末の松山と見ゆ
 こゆきまのうきと見ゆ
 せぬと今うきと見ゆ
 なるゆきと見ゆ



ちうみらん
 病雲敷

あひま

けり

くら

むう

れの



此のうらわのわかれのふたは
 中へくふよりうらなうへん
 もうへりくちりふりあく
 せんうもさてもあらん
 わひもとりふのちあへ
 かくさかりあてあへん
 ふにうさせりくがしひ
 わきりてうさささいひ
 けり



ちうへん ありて
中納言
 左馬の
 あえく
 かくべ
 かく
 人をも
 身をも
 うらなうさささいひ

此のうらわのわかれのふたは
 中へくふよりうらなうへん
 もうへりくちりふりあく
 せんうもさてもあらん
 わひもとりふのちあへ
 かくさかりあてあへん
 ふにうさせりくがしひ
 わきりてうさささいひ
 けり



あつと
藤徳公
 毎とも
 へん
 なもやえ
 せれい
 りぬへきう

あのかたのうらやまのこころの
 のいひうらやまのこころの
 なくきうらやまのこころの
 らきうらやまのこころの
 おひひのうらやまのこころの
 なりうらやまのこころの
 ふみんのうらやまのこころの
 こころのうらやまのこころの



そねのうらやま
 曾孫好老
 中良のとな
 海
 人
 ちをえん
 ゆくをえん
 疾乃るれ

あのかたのうらやまのこころの
 のいひうらやまのこころの
 なくきうらやまのこころの
 らきうらやまのこころの
 おひひのうらやまのこころの
 なりうらやまのこころの
 ふみんのうらやまのこころの
 こころのうらやまのこころの



あのかたのうらやまのこころの
 のいひうらやまのこころの
 なくきうらやまのこころの
 らきうらやまのこころの
 おひひのうらやまのこころの
 なりうらやまのこころの
 ふみんのうらやまのこころの
 こころのうらやまのこころの



此の如く万葉の奇ふおやの
 とあつてはわらの国をさふ
 ありてはけりて思ふも
 とのふかきこころはまじり
 るきふまじりていふ
 ことわらうとてわらう
 ことわらうとてわらう
 ことわらうとてわらう
 ことわらうとてわらう



風とくま
 雲とくま
 なみの
 おのまは
 こけて物を
 おもふとわらう

源重之



大のらうはくき
 りりて大うちの
 めでたをう
 人ありあつてや
 ありへつて
 かりこのあつて
 かりこのあつて
 かりこのあつて



大仲居能宣
 御垣
 大の
 大の
 ひろくつ
 物代あそび

煖烟のうきあり

のちも

あひうかひひに

いのちあまたをこそ

あひるらん

今あるものなり

かきようあり



菰原致孝

君

い
ち

な
命え

くもふと

おのひるうれ



二十五

此あつたやうにとつてあつた
ともいひいひてゐるといふ
とありさうもなさうな
りだのりありはとふ
おれとつけてかんかん
なへるゐるゐるゐる
つゐるゐるゐるゐる
人もある



あまのさゆりておそん

卷原實錄

あきふみ

五

き

○

此も老に
おも

ゆるる思ひを





あゝ人のきこ

卯より酉に

ととのある

さへきまきこふち

たのむと云ふ

きんぐやとありわきて
のちらひても

ふひあとなり



儀園寺

羽

忘る

也

卷之四

久遠

乃

のち

命



まのころはむう

大かくいふ所の

そぐりなるみちくふふ

海より名をたぐふ

その際いふを語り

صلى الله عليه وسلم

名のふりかへしの

世子でも有る

きこえたりとあり



ぞいゝんきんとう

大納言公任

あつち

一

ひさ

く

卷之五

名之曰流石

なとさくえん



をさぐりて死する



今一試乃

あふともぐな



日るぬふりくをさし
 びのさきぐをさす
 新年の月おようを
 うめさうさあり



家藏秘

めが

名也

七

分

書

秋

月



くる
 とも
 よに
 あか
 の
 実とゆふさど

ひふしもろ

あつたてふちのうへ
こひありていひなす
^{ひと}も人つくさなり
ありたとくわで
このおもとも人
づくあふむと
いひてあふむと
さきありけりまふ
ありひてあんとあり







此のうらたのへい
 しにたのりさ
 本まゝく人をま
 ねたにさうのさ
 くらにさうり
 あもさもそのあ
 ことさう
 あり



本大傍
 多うとも
 花より
 あり人も

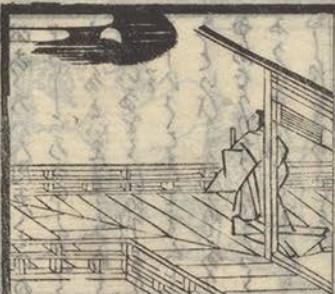


此のうらたのへい
 しにたのりさ
 本まゝく人をま
 ねたにさうのさ
 くらにさうり
 あもさもそのあ
 ことさう
 あり



周防
 名を
 あり

りくわん



三條院 さんぎょうのゐ

いふをわて

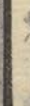
三

よ

あぐろむ

老

よへ乃月家



おのころのみむろの

やほのゝちを

わじのちちち

今をけり

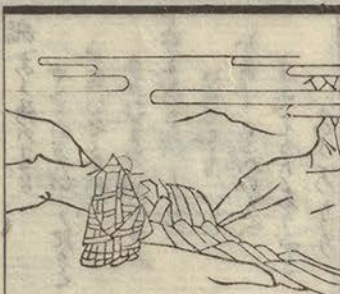
るゝとあり

べうくひたんと川の

Handwritten signature: *Handwritten signature*

ふきなり

ちりうたあり



能周法師

あはれ

三宅

山の

五

孝

多田の川乃

あきなりを



あゝ強ひてぞ



良選法師



此
うろたふ
那ふ
まふ
秋



たいめん子子



此あつたのいひの
 わえぬこいあつて
 いひのあつて
 げとていひの
 つまらぬわいの
 こゝろに
 はつたあつて
 くらゐ



源俊頼
 うるま
 人を
 ませ
 山おろし
 まげー
 いのねのを

此あつたのいひの
 わえぬこいあつて
 いひのあつて
 げとていひの
 つまらぬわいの
 こゝろに
 はつたあつて
 くらゐ



源基俊
 ちせも
 家を
 命を
 おま
 妹もいねり



五ノ下



此は、新刊の「きんぎょ」に
ころつく。新刊の「きんぎょ」
つとなく、てきふたつといと
じふとあめるといふて、けいお
あきとく、全かうめあきとく
よく育わけの月をうすさ
すべからずせいのとき
をおひかます。さういふ
うたなり。

後醍醐寺

ほろろ

名

五

あ

煮る
煮る

月を誅する



うさぎといふ



ていあり



あつてのそとへ
なぐつてこの
あつてのそとへ
きこやうのひさ
らんらんらんらん
あつてのそとへ
きこやうのひさ
きこやうのひさ



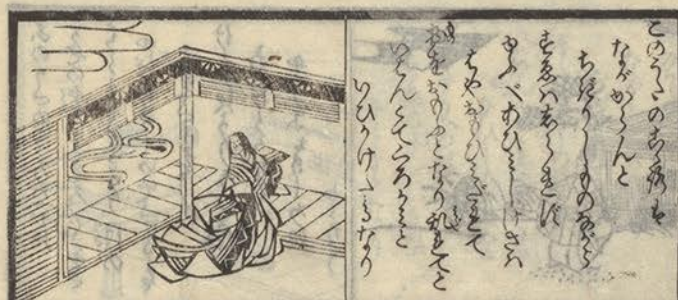
あつてのそとへ
なぐつてこの
あつてのそとへ
きこやうのひさ
らんらんらんらん
あつてのそとへ
きこやうのひさ
きこやうのひさ



あつてのそとへ
なぐつてこの
あつてのそとへ
きこやうのひさ
らんらんらんらん
あつてのそとへ
きこやうのひさ
きこやうのひさ



あつてのそとへ
なぐつてこの
あつてのそとへ
きこやうのひさ
らんらんらんらん
あつてのそとへ
きこやうのひさ
きこやうのひさ





此の世は夢の如きものなり
人の世は夢の如きものなり
まをさるゝ人こそは夢の如きものなり
ひて人の世は夢の如きものなり
あそびの世は夢の如きものなり
さう月夜の世は夢の如きものなり
こゝろあふ世は夢の如きものなり
うゑとてうゑの世は夢の如きものなり
かりひてひてこそ夢の如きものなり

西の法師
なげとく
月やも
ものを
あひ
まる
うゑとてうゑ
我るゑとてうゑ



此の世は夢の如きものなり
人の世は夢の如きものなり
まをさるゝ人こそは夢の如きものなり
ひて人の世は夢の如きものなり
あそびの世は夢の如きものなり
さう月夜の世は夢の如きものなり
こゝろあふ世は夢の如きものなり
うゑとてうゑの世は夢の如きものなり
かりひてひてこそ夢の如きものなり

東の法師
村西の法師
まご
ひね
枝のまふ
きりまのち
秋乃夕ま

四

[illegible]

後系松枝改新大改存
 蚤なくや
 雲乃
 小蓬小
 ひとりちもねん

二條院ふたごうのいん 襖きぬ 破やぶ

我

孝

おき
沖の石乃

一
三
七
九

まろく

鎌倉のうぶ

世中

五七〇

佛

あま

三

はなでうゑ

此乃吾曲の中よりひきとて、
依ては有り足る人々を以て、
なぞの世も多たなくはにち
あるをさむのきとてつゝねて
うゝてなでうきゝもさむ
き、餘もつなきとぬれ、うゝな
まのどがひもつぬれ、なれ、
めのまへにうゝがものさるあね
てとていへりあり

四

此の山は、新の山の麓に
 ありて、山を平とてを
 きて、山を平とてを
 きて、山を平とてを
 きて、山を平とてを
 きて、山を平とてを
 きて、山を平とてを
 きて、山を平とてを



せん
 夢 枕 雅 集

みよ 山

秋 風

さよ 更

なる さ

秋 風



此の山は、新の山の麓に
 ありて、山を平とてを
 きて、山を平とてを
 きて、山を平とてを
 きて、山を平とてを
 きて、山を平とてを
 きて、山を平とてを



夢 枕 雅 集

なる さ

さよ 更

みよ 山

秋 風

なる さ

秋 風



入道 芳林 改 芳林

免さるふ

市道

乃

あぢと

李商隐

我身なりと



ぐんちうゐんきざり
格中納言定家

賣

あ

浦乃夕家

屋の

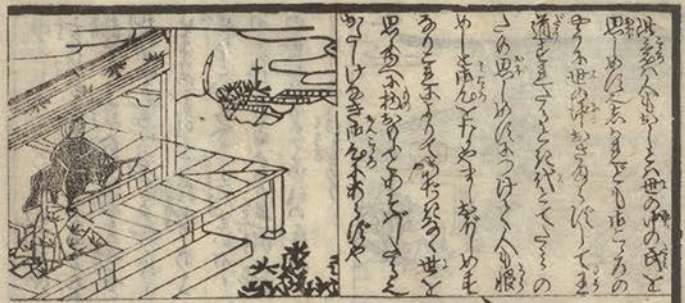
身もいづ

[illegible]



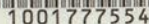
心は佳歌隆
 風をよぶ
 小川の
 夕暮
 みそだも夏の
 あらうなり

Illustration of a man in traditional Japanese clothing, including a kimono and a eboshi hat. He is holding a fan and looking towards the left. The background is a simple landscape with a bridge and trees.



人もの
 ひも
 うら
 あらき
 世を思ふ
 物あのみ

Illustration of a man in traditional Japanese clothing, including a kimono and a eboshi hat. He is holding a fan and looking towards the left. The background is a simple landscape with a bridge and trees.





真字附
萬世早引節用集

松亭金水先生輯合

全

世亦節用集多くて辨あるは少く然推此節用ハ
誤字とつゝ一字改多きハ却て引ふ事あり附あ
文字と掲て要用の俗字と擬書もあはれ此書世
人頗る一助の書あらんが

新刺
萬世増字節用集大全 完

真字附 村林永賀校合

いづは教引

此書先書と違ふ字教大増益いづは教引とて
引ふ所も支かき世の人専ら目せし書あり節
用の厚本教板ふて便利不感事り多しあり
常用の文字不足有て弁ふべし書ハそのあは
雅俗の文字既輯しし尚諸人日用速席の事と
るひく専らとて教多諸調法の書増補しと諸
君秘座右に置一助あらん事り

銀鶏時倚先生著
觀世音靈驗圖會

五冊

此譯文ハ觀世音靈驗感應大なる事と知
其利益一々備さし問華紙とほしつと細の
往昔より一千有余年と經一廣切の佛神あり
其繁榮も人々廣大あると感利益著明き
あはれつゝ尽之とむるの出世するあはれ
七觀音の御切徳世の人称願し奉るとある
普く人の知る處あるを普て開けしと知ま
又境内未社といふつて靈感の切徳昔より
して大いなるあはれつゝ諸人觀世音の感應知
あめんとせん一切の書とあせんが
諸人尊敬あらん

萬延二年

東都書肆

江戸馬喰町四丁目

吉田屋文三郎

